

◆岡山大学法学部だより◆

※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方にお送り  
しています

第 155 号(2020 年 3 月 25 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

=====

ご卒業おめでとうございます。今年は卒業式が行なわれず大変残念でしたが、卒業生の皆さまのさらなるご活躍  
を祈念しています。

-----

○卒業生の皆さんへ

-----

法学部長 河原祐馬

元号が平成から令和へと代わり、皆さんは、令和の時代に入って最初の卒業生となります。また、今年は東京オ  
リンピックの年にも当たり、皆さんはこうした新しい時代の門出ともいべき日本をとり巻く環境の中、この 3  
月に無事卒業式を迎えられるはずでありました。私も、しばらく前までは、これまでと同じく、皆さんと共に卒  
業式の日を迎えますことをとても楽しみに致しておりました。しかし、今年に入って、新型コロナウイルスの感  
染問題が急浮上し、岡山大学では、この 3 月の卒業式をいち早く中止するとの異例の措置が取られました。こう  
した岡山大学の対応は、リスク管理の面から考えると致し方ない判断であったと思いますが、ただ、大ホールで  
全学規模の挙式が行われず、学部生の皆さんに手渡しで卒業証書を授与できなかったことは、私にとっても、予  
想外の残念な結果となってしまいました。

今日の時代を冷戦後の時代と呼ぶようになってすでに 30 年以上の月日が流れましたが、冷戦終結の背景には、  
環境問題や核兵器管理の問題など、いわゆる「グローバル・イシュー（地球規模の問題）」に有効に対処するた  
めに東西両陣営が共に歩み寄りなければならないという、国際相互依存もしくは国際相互安全保障の観点があ  
りました。冷戦が終結した後の今日の時代において、様々な領域でグローバル化のプロセスが急速に進み、かつて世  
界が米ソ両国の下で 2 分されていた前世期の状況はすでにはるか過去のものとなっております。卒業生の皆さん  
は冷戦後に生まれた世代であり、グローバル化のプロセスが大きく進む現在の状況は皆さんにとって至極当たり  
前の日常となっております。今回の新型コロナウイルスの感染問題は、まさに「グローバル・イシュー」の最た  
る例であり、この問題は、世界の人々に、「ヒトの移動」とそれに伴う「国境管理」といった問題を改めて問い直  
させ、また国境を越えた人類生存のための国際的な相互安全保障という観点の必要性を再認識させる大きな契機  
となっております。

グローバル化のプロセスがあらゆる分野で急速に進む今日の社会は流動的で、変化が著しい将来を見据えるの  
は、われわれにとって、とても難しい状況となっております。ただ無論のこと、このように述べて、皆さんの不  
安をいたずらに掻き立てることが私の本意ではありません。私としては、世界がますます一体化し、人々が地球  
規模の問題を好むと好まざるにかかわらず共有せねばならない今日の状況において、若い皆さんがこうした現下  
の複雑な状況を踏まえた上で、岡山大学で培われた知識と経験を活かして、ご自身の能力と可能性をさらに伸ば  
していけますことを心より願っております。これから社会に出られる皆さんにとりまして、時として、大きな  
困難に立ち向かわなければならない局面があると思いますが、卒業生の皆さんが、今後のご自身の人生の中で、  
こうした困難な状況を乗り越えられ、またいつか、岡山大学法学部で学ばれた時代のことを懐かしく思い出して  
頂けることがあれば、私としてはとても嬉しく思います。最後になりますが、卒業生のみなさん、ご卒業、本当  
におめでとうございます。